撮影地: フジクラ 木場千年の森

編集・発行
サンメッセ株式会社 ソリューション戦略推進部
株式会社ファイブ・シーズ
E-mail contact@sun-5cs.jp

2017 Dec
Vol. 07

ご紹介企業
株式会社フジクラ
インタビュアー:
サンメッセ株式会社 ソリューション戦略推進部 岡部孝弘

東京都江東区、地下鉄東西線木場駅から歩くこと5分。マンションや企業ビルが多く立ち並ぶ一角に突如現れる緑あふれる空間、それが『フジクラ 木場千年の森』です。多種多様な動植物が生息し、まさに都会のオアシスと呼ぶに相応しい生態系がそこにはあります。
この森をつくり、管理しているのが、電線や光ファイバーを製造する非鉄金属メーカーのフジクラ。一見、自然と関連の無さそうな同社がなぜ森をつくったのか。同社にとっての地域共生や社会貢献に関するお考えをお聞きしました。

地域住民の要望をカタチにしたら東京の真ん中に森ができました。

東京の街中で、まさかカワセミを見ることができるとは思いませんでした。箱庭のような「作られた自然」ではなく、本当の森であることに感動しました。

宮田さん:『フジクラ 木場千年の森』ができて7年が経ちますが、着実に森が育っていることを実感します。ここは海に近いこともあって、建設当初は潮風などの影響から「本当に育ってくれるのだろか?」という不安もありましたが、何とかここまで育ってくれました。

山本さん:私たちはここを「ビオガーデン」と呼んでいます。つまり生物の保護エリアである「ビオトープ」の概念と、人間の憩いの場所として楽しめる「ガーデン」としての機能を併せ持った空間ということです。

この森は日本の在来種にこだわったと聞いていますが、本当に日本に昔からあったような景観が再現されていますね。

宮田さん:数百年前の武蔵野台地の豊かな森や林を再現することをコンセプトに設計されています。タブノキやクヌギ、ヤマツツジなど119種もの日本の在来種が植栽され、池には荒川上流にいたオイカワやモツゴ、ドジョウ、メダカ、シジミなどが放流されています。

ギャザリア・ビオガーデン "フジクラ 木場千年の森"

■ 場　　所:東京都江東区木場1-5-1
深川ギャザリア内
■ 規　　模:区域面積:2,200m²
池と流れの面積:約400m²(上の池・小川・下の池)
■ ガーデン公開時間帯:
4月~9月　7:00~18:00
10月~3月　7:00~17:00
(年末年始、管理作業期間除く)

山本さん:ここでは人間ではなく動植物が主役。だからあえて管理も必要最低限に留めていますし、来場者が立ち入ることのできるスペースも制限させていただいています。それで安心して動物が棲みついてくれるようになったのだと思います。

そもそも、なぜここにビオガーデンをつくろう、となったのでしょうか。

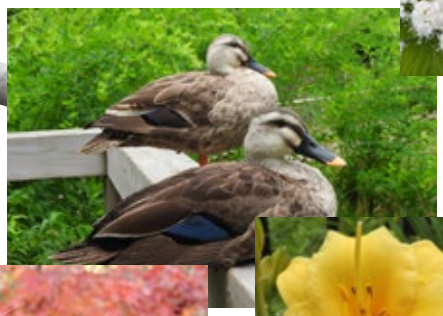
宮田さん:ここは元々当社の工場があった場所です。工場の移転により、このエリアを再開発することになったのですが、実は駐車場にする予定だったのです。しかし地域の方々から「自然に触れ合える空間があると嬉しい」という声をたくさんいただきました。その後社内で検討した結果、「地域の皆さんに喜んでいただけることをしよう」という社長の決断によって決まりました。

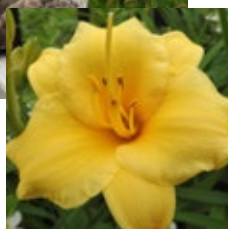
まさに英断ですね。社内で反対の声は上がらなかったのですか。

宮田さん:それが全くありませんでした。当社には地域共生や、社会に貢献するという意識が結構強くあるのです。それは創業以来の当社のDNAといえるかもしれません。

それはフジクラさんが運営されている「藤倉学園」が象徴的ですね。100年以上前から障がい者支援を実施されているという企業はあまり聞いたことがありません。確かに社会貢献に対するDNAが根付いているのでしょうね。

山本さん:2015年に新しく障がい者雇用支援として千葉県佐倉市の事業所内に「フジクラキューブ」というグループ会社を設立しました。実はその敷地内に第2のビオガーデンを建設中なのですが、この建設作業で一番活躍していただいているのがフジクラキューブの社員の皆さんです。こういった流れで、グループ社員にCSRへの理解が広がっていくのは嬉しいですね。





[写真提供:(株)フジクラ]

植物:タブノキ、スダジイ、エゴノキ、コナラ、クヌギなど
魚:モツゴ、ギンブナ、オイカワ、ドジョウ、タモロコなど
鳥(飛来が予想されるもの):
オナガ、シジュウガラ、カワセミ、ジョウビタキ、ヒヨドリ、コゲラ、メジロ、キジハト、ドバト、カワラヒワ、ハクセキレイ、モズ、カルガモ、コサギ、ゴイサギ、アオサギなど
昆虫(生息が予想されるもの):トンボ類、チョウ類など

宮田裕之 氏
株式会社フジクラ　CSR推進室　室長

1989年フジクラ入社。材料技術研究所　材料評価センター長を経て、品質環境管理部長を歴任。2016年10月より現職

山本高嗣 氏
株式会社フジクラ　CSR推進室　グループ長

広報部門を経験後、2016年4月にフジクラCSRグループに着任。2016年10月より現職。

▲生態系のピラミッドが形成されている

『フジクラ 木場千年の森』でも地域との交流が進んでいるのでしょうか。

山本さん:毎年春と秋に説明会を実施しているほか、近隣の幼稚園、小学校から児童を招いて敷地内にある農園で芋掘り体験をしていただいています。そのほか通勤路として利用される方も多いですね。

来場者が増えるのは嬉しいですが、反面ゴミなどが心配ですね。

宮田さん:確かにそういう懸念はありますが、今のところ有り難いことにゴミが捨てられていることはほとんど無いですね。実は、これまであまり広報活動を積極的に行ってこなかったのですが、森もここまで育ってくれたので、これからはより多くの方々に、この森を知っていただき楽しんでほしいと思っています。

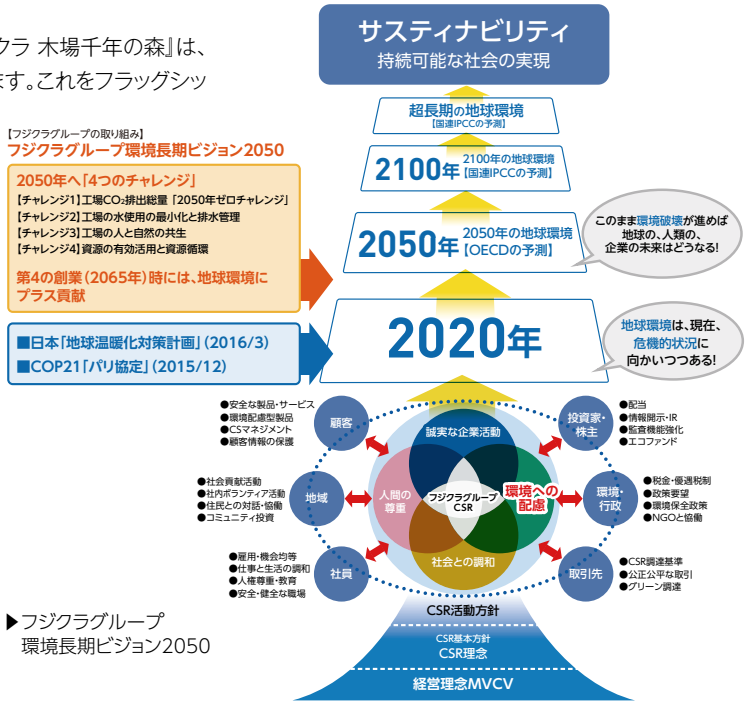
今後の展望やビジョンなど教えてください。

山本さん:東京都がすすめる在来種植栽プロジェクト「江戸のみどり復活事業」へ参画、また2017年9月には「江戸のみどり登録緑地」の優良緑地として登録されたこともあり、いろいろな自治体の方が視察にいらっしゃいます。一般企業でもこのような取り組みが拡がっていくといいですね。そのためのご協力や情報提供は惜しみませんし、森づくりに関するネットワークなどもできるとよいですね。

宮田さん:当社では環境長期プランを昨年開示しましたが、この『フジクラ 木場千年の森』は、生物多様性の取り組みにおける大きな柱の一つとして位置づけています。これをフラッグシップとして、第2、第3の森を育てていきたいと思いますし、この取り組みを通じてフジクラ社員の環境マインドをさらに高めていきたい。そうすれば当社の事業活動にも、そのマインドが色濃く反映されるようになるのではと思っています。

芋掘り体験▶

◀説明会



▶フジクラグループ
環境長期ビジョン2050

「都市のオアシス」に認定

公益財団法人都市緑化機構が認定するSEGES「都市のオアシス」に認定

「江戸のみどり登録緑地（優良緑地）」に初登録

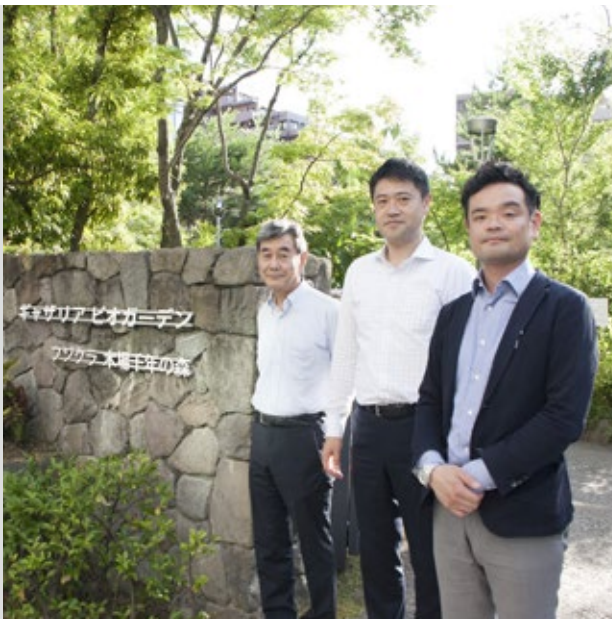
東京都が制定した在来種植栽登録制度に、制度発足後初の優良緑地として登録

編集後記

森が育む、企業と地域との素敵な関係。

『フジクラ木場千年の森』を取材に訪れた際、幸運にもカワセミに遭遇。カワセミは自然豊かな場所にしかいない、という思い込みがあったため、些か不思議な感覚を覚えたことを記憶しています。東京の都市部、しかも日本古来の森を育てようという発想がとてもユニークですが、7年もの年月をかけてここまで育て上げたフジクラ社の熱意と行動力には感服するばかりです。企業は地域の声を聞き、ともに発展していくもの。当たり前のことではありますが、それに真面目に取り組むことで成功した『フジクラ木場千年の森』は、これからの企業のあり方、社会との対話、という点での大きなヒントになるでしょう。

サンメッセ株式会社　ソリューション戦略推進部
コーポーレートコミュニケーション戦略推進室
岡部 孝弘
（経営倫理士）



Column　読解「IR Best Practice Guidelines」（英国IR協会編纂より）

2009年から英国IR協会編纂「IRベストプラクティスガイドライン」の日本語版作成プロジェクトに参画している株式会社ファイブ・シーズ代表取締役 越智義和が、最近のIRの潮流をわかり易く解説いたします。

第2回　広報・IRにおける課題解決に向け「IRベストプラクティス」を活用

英国IR協会は、毎年11月にIRベストプラクティス賞を発表しており、2017年のベストアニュアルレポート（BAR）部門の受賞企業を見ていきたいと思います。

BAR部門は、FTSE100、FTSE 250、Small Cap & AIM、Internationalの4つから構成されており、表に示した企業が受賞しました。英国企業はARを制度開示として作成しており、会社法やガバナンス法の法規制に沿った開示を行っていますが、今回の受賞企業の作品を見ますと、国際統合報告審議会（IIRC）のフレームワークにある価値創造プロセスの考え方を採り入れてきていることが特徴としてあげられます。また、Standards CharteredのARは、リスクに関する報告が評価されており、日本企業のリスク開示と大きな違いが見られます。

部門	受賞企業	業種
FTSE100	Standards Chartered	金融業
FTSE 250	Howdens Joinery Group	台所関連資材業
Small Cap & AIM	AO World	オンライン小売業
International	Adecco Group	人材サービス業

●広報・IRの課題解決に向けて

株式会社ファイブ・シーズは2009年に明日のIR活動を考えたワーキンググループProject Future Projectの立ち上げに参画し、英国IR協会編纂「IRベストプラクティスガイドライン（当ガイドライン）」の日本語版作成に取り組んでいます。この活動は、ファイブ・シーズを含む4者を中心にPRO BONO（無償奉仕）で活動を進めています。

E! Talksの読者の皆さまに当ガイドラインを紹介しながら、「サンメッセ×ファイブ・シーズ」が協働で、課題の解決にあたってまいります。

●冊子配布

当ガイドライン：PFP2017を希望のお客さまは、担当者または弊社サイトの「E! Talks発行に関するお問い合わせ」へご連絡ください。

PFP2017

「E! Talk's」では、毎号、読者の皆様にとって企業活動のヒントとなるであろう「いい(E)話題」を、Environment（環境）、Ethical（エシカル）、Economy（経済）などのキーワードを中心に、各企業、各界の方へのインタビュー(Talk)形式でご紹介してまいります。

本内容に関し、さらに詳しく聞きたい、各関連報告書作成の相談をしたい、等々、ご興味のある企業様は、弊社コンサルタントがお伺いのうえ、ご説明させていただきます。お気軽に担当営業までお問い合わせください。今後とも、サンメッセ株式会社及び株式会社ファイブ・シーズをご愛顧のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

本 E! Talk'sは投資勧誘を意図してご提供する内容ではありません。このレポートの掲載情報は信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された意見や予測等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。内容に関する一切の権利はサンメッセ㈱及び㈱ファイブ・シーズにあります。無断での複製・転載・転送等はご遠慮ください。

サンメッセ株式会社　http://www.sunmesse.co.jp/
Five Cs　http://www.fivecs.co.jp/